
沖田総司 ~ 桜の咲く頃に ~

恋桜鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

沖田総司 〱桜の咲く頃に〱

【コード】

NO108I

【作者名】

恋桜鬼

【あらすじ】

初投稿です！！・千鶴目線・季節は春で、まだ沖田さんが羅刹になっていない頃の話です。

(前書き)

国語の成績が残念な作者なので、温かい眼でお読みください・・・。

4月の初旬。桜の花が咲き始めた頃、ある日の昼

「今日も暖かいなあ・・・」

私は青く澄み渡った空を、屯所の縁側から見上げていた。

「じゃーいつしよに散歩にでも行く?」

ふいに後ろの部屋から声がした。

振り向くとそこには・・・

「お、沖田さん!」

私は思わず声を上げてしまった。

「ふふつ、そんなにビックリした?声かけたただだよ」

彼は悪戯っぽく微笑みながらこちらを見ていた。

「びつくりしますよ!!土方さんと近藤さんは偉い人たちとの会議だし、

平助君たちは巡察に行ってるから誰もいないのかと・・・。それに・・・」

『沖田さんは具合が良くないんじゃない?』

彼の労咳は、日に日に悪化して行っている。

咳の数も増えて、調子が悪いときは床から起きられない日もあるくらいだ・・・

「それに・・・何？」

さっき言いかけた続きを彼は聞いてくる。

「な、なんでもないです！！」

全力で否定したつもりだったが、彼は私の言いたかった事がわかったみたいで

「もしかして、僕の体のこと？」

「っ！！」

凶星は丸見えだった。

「大丈夫だよ、今日は暖かいし。それに君が心配するほど悪くないよ。」

そう言いつつも、顔色はあまり良くない。

『本当に大丈夫なんですか？寝ていたほうが・・・』

そう言おうと思ったけど、病気で任務に就けない彼のもどかしさを思うと

言えなかった。

かわりに出た言葉は・・・

「な、なんの本を読んでいるんですか？」

彼が持っていた本を指差して聞いてみた。

我ながら苦しい話題転換だ・・・

「ん？ あーこれは“解体新書”だよ。」

『“解体新書” たしか昔の蘭方医の方が書かれた医学書・・・。
前に父様の部屋で見たことがある・・・。でも、なんで沖田さんが
医学書なんか・・・。』

不思議に思っていると、

「確実に敵を殺するには、致命傷になりそうな場所を正確に斬らない
とね。」

だから大きな血管とかが通っているところを知ろうと思って」

そんなの読まなくても、新選組の幹部としてたくさん浪士たちを
斬ってきた彼には
どこを斬れば致命傷を負わせられるくらい分かっているはずなの
に・・・。

『もしかして、病を治す方法を調べているんですか・・・？』

うつむきながらまた、心のなかで質問する。

私も何か力になれたら……

「どうかした？」

彼は微笑みながら視線を合わせて私の顔を見ている。

顔を上げると、

綺麗な澄んだ緑色の瞳がじっと私の眼を見ていた。

(後書き)

お疲れ様でした。

短くてすいません・・・

また書けたらいいなあ (遠目)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0108i/>

沖田総司 ~桜の咲く頃に~

2010年10月15日23時01分発行